

H25 年度第 1 回保全事業報告会



<開催日時>

- 平成25年9月11日(水)19:00-20:30 谷津公民館(12 名)

<説明内容>

- 保全事業の経過報告
- 平成 24 年度の結果報告と平成 25 年度の計画説明

※資料

[説明用資料.pdf](#)

[議事概要.pdf](#)

国指定谷津鳥獣保護区 保全事業の経緯



1

関東地方環境事務所

1. 保全事業の実施(平成22年度～)

位置付け

シギ・チドリ類の採餌場

都市部に残された自然

地域の財産

国指定谷津鳥獣保護区

- 目的
鳥類の保護・生息地の保護
- 指定要件
集団渡来地

ラムサール条約登録湿地

- 目的
湿地の保全と賢明な利用
- 湿地の特徴
泥質干潟、シギ・チドリ渡来地

【現状】

シギ・チドリ類の飛来数の減少

悪臭による生活環境の悪化

望ましい姿

都市部の中に残された貴重な干潟であることから、
自然の営みと人々の生活のバランスが保たれ、
自然と人とが共生できる干潟を目指し、

地域によって守り受け継がれてきた谷津干潟を、
世界に誇れるシギ・チドリ類の渡来地として、
安らぎ・憩える地域のかげがえのない財産として、
将来にわたって地域とともに継承していきます

保全対象

鳥類(シギ・チドリ類)が
渡来(採餌)できる干潟環境の保全

周辺住民の生活環境の改善
(アオサの腐敗臭対策)

2. 保全事業の取組み状況(平成25年度現在)

東北地方太平洋沖地震

H22年度

H23年度

H24年度

H25年度

H26年度

(予定)

資料整理
現地調査

資料整理

※地震後の地形調査

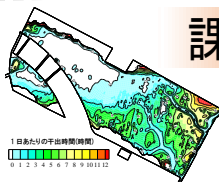
基礎調査

…地形・底質・流れ・底生生物等

対策具体化に向けた補足調査(適宜)

…河川内堆積物、貝殻調査、アオサ調査等

解析検討



課題抽出・要因分析

※地形変化による見直し

机上検討(数値シミュレーション)

対策の具体化

保全事業計画
の検討・策定



保全方針・保全対策



事業内容・スケジュール・体制

※地形変化による見直し

※保全事業実施
計画の公表

※保全事業計画の公表

実証試験



底質改良試験

施工・モニタリング

※試験区の改良

嵩上げ試験

施工・モニタリング

※規模拡大(→事業の段階的实施)

杭設置試験

施工・モニタリング

※規模拡大(→事業の段階的实施)

流路の堆積物除去試験

施工・モニタリング

※規模拡大(→事業の段階的实施)

専門家の助言



地域との連携



※HP開設

検討会等

報告会等

連携・協働



※住民参加イベント等

緊急的な対策の実施(アオサ回収)

※H14年度より継続実施

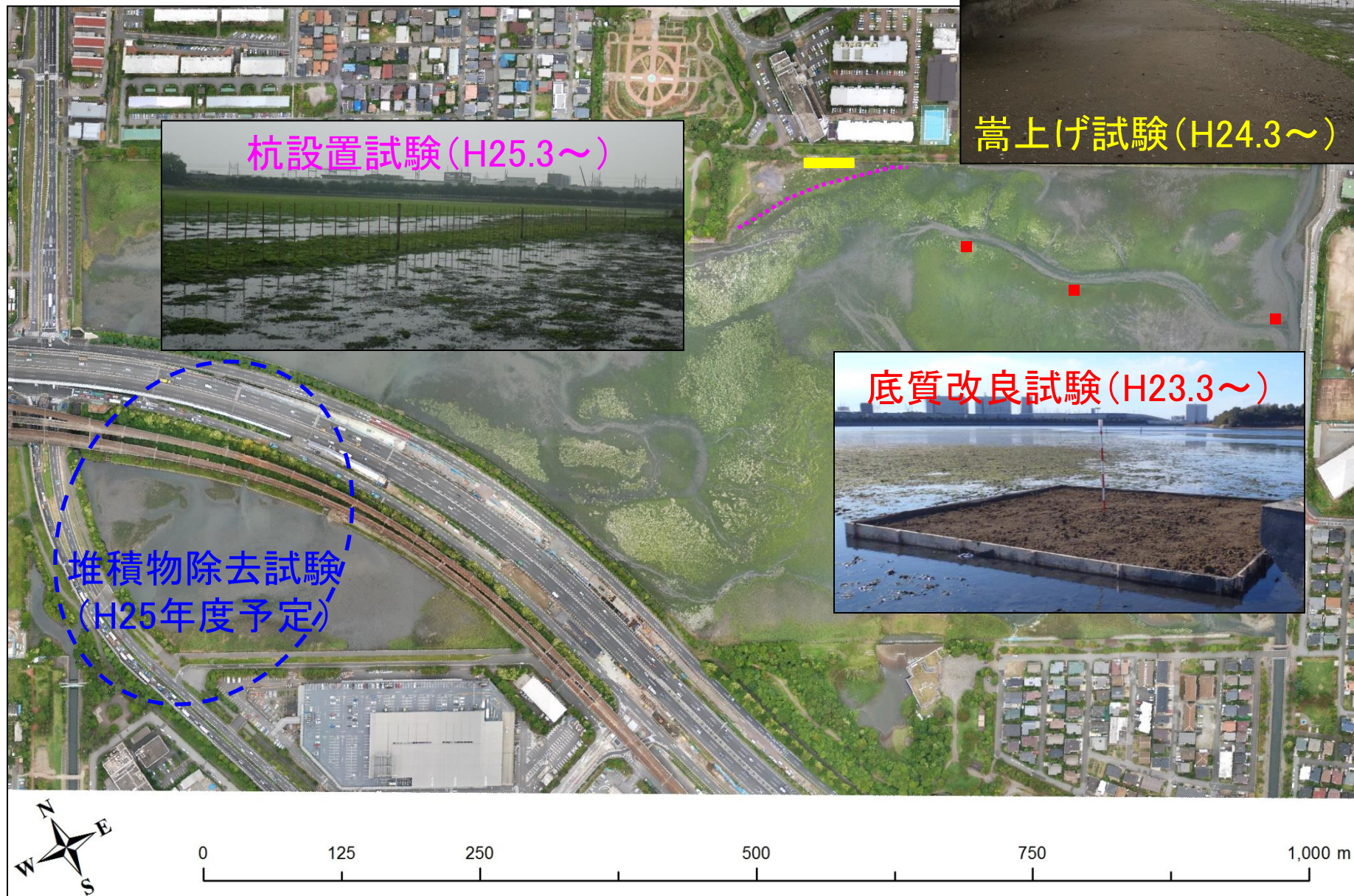


保全事業へ

これまでの経過報告と 平成25年度の計画説明

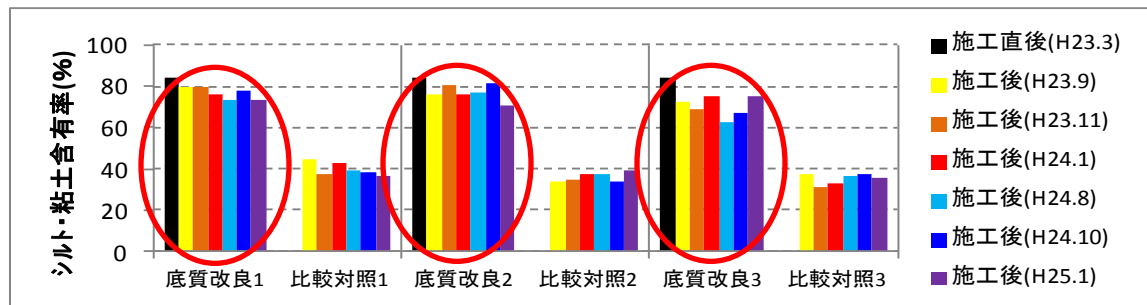


1.実証試験



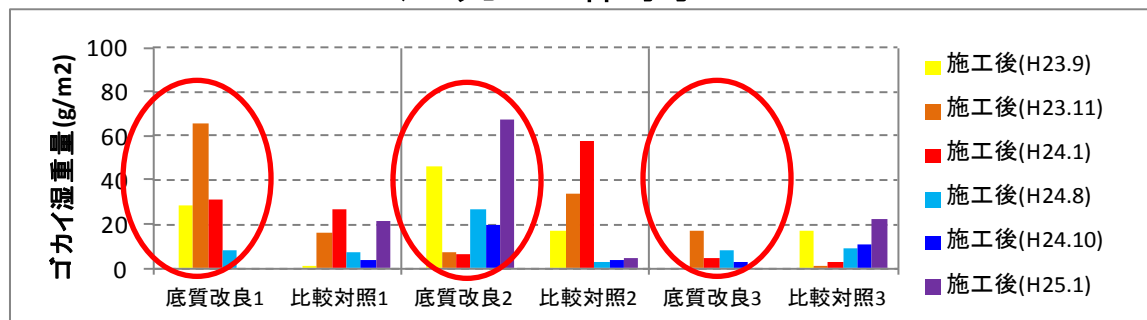
底質改良試験：底質を砂⇒泥にすることでゴカイ類をふやす

施工直後(2011/03/08)



泥分は維持

施工後(2013/01/16)

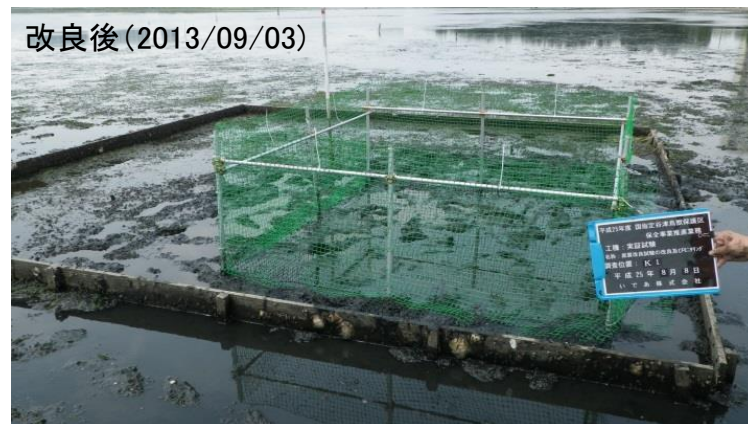


ゴカイ類の生息状況は周りと変わらない

アオサが堆積・腐敗すると底生生物の生息環境が悪化する可能性
⇒試験区の改良(平成25年度)

試験区の一部をネットで囲い、
アオサが堆積しない区画を設置

改良後(2013/09/03)



嵩上げ試験・杭設置試験：アオサの吹き寄せ・堆積を防ぐ

平成23年7月13日

施工前

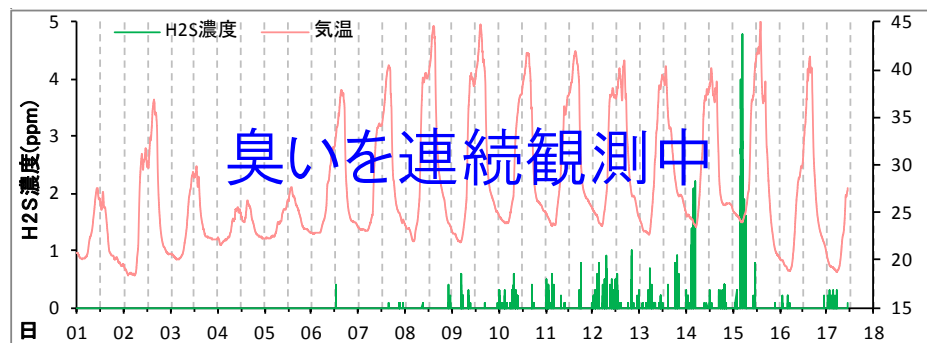
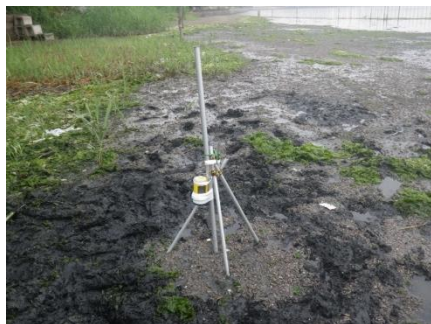


平成25年8月5日

施工後



護岸からアオサを遠ざけることができた。



H25/8/3 11時 潮位-49cm



H25/8/3 15時 潮位37cm



H25/8/4 9時30分 潮位-49cm

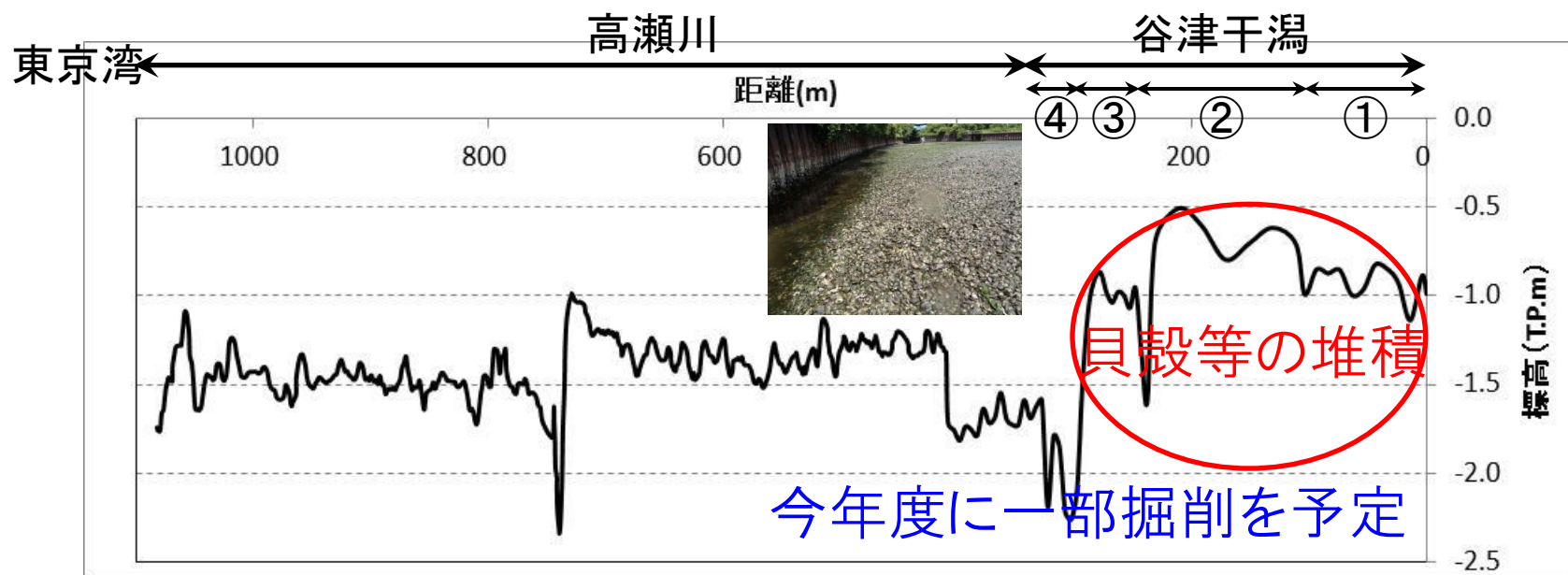
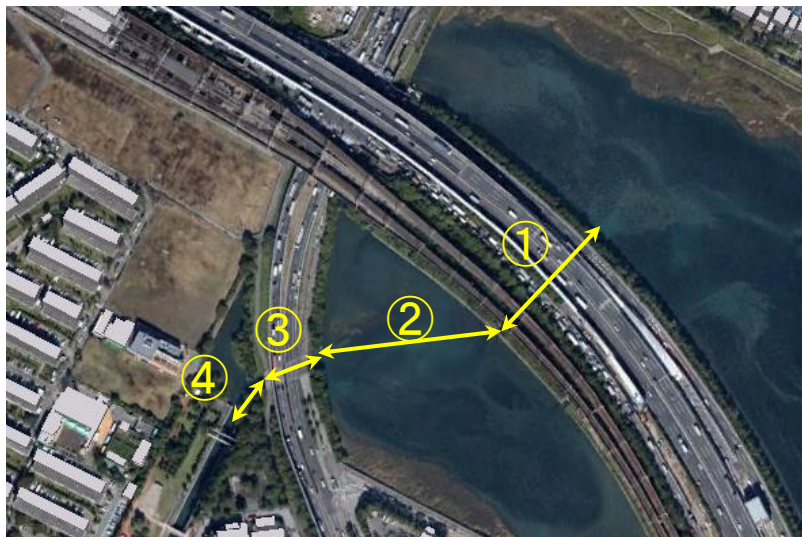


H25/8/3 17時 潮位64cm



杭によりアオサが止められている。

堆積物除去試験(平成25年度): 干潟内の流れを改善し、干出時間・干出面積を増やす



2.地域との合意形成

報告会

- ・ 平成22年度(2/20・2/22:谷津干潟自然観察センター、78名)
- ・ 平成23年度(8/5、1/20 :谷津干潟自然観察センター、46名)
- ・ 平成24年度(10/12、2/26 :谷津干潟自然観察センター、58名)
- ・ 平成25年度(9/11、1～3月(場所未定):谷津公民館)



- ・ H23年度
保全事業パンフレット

- ・ H24年度
保全事業計画パンフレット

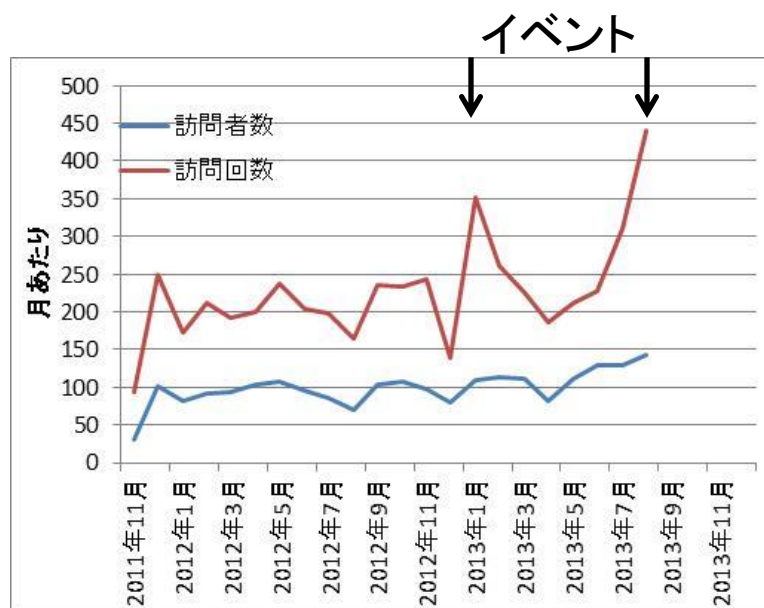
4

1

10

1

○WEBサイト



メインカテゴリ	サブカテゴリ
お知らせ	検討会・報告会・イベント・情報更新等
谷津干潟	谷津干潟の特徴／指定・登録状況／調査・検討の経緯
保全事業	重要性／現状と課題／保全事業の計画・実施
保全の取り組み	現地試験(底質改良試験／嵩上げ試験／杭設置試験)／アオサ回収活動／鳥類のモニタリング
専門家による検討	検討会の概要
地域との合意形成	報告会等の概要／イベントの開催／意見受付
資料データベース	過去からの変遷／基礎データ(地形・水位・アオサ)／パンフレット／保全事業計画書
外部リンク	環境省、関東地方環境事務所、習志野市

WEBサイトを活用した住民参加モニタリング(平成25年度)



アオサ報告リスト

皆様からお寄せいただいたご報告を掲載しています。

登録日時: 2013/08/26 03:19:54 観測した日: 2013/08/26 03:00 観測した方: テスト

色
1. ■海水と同じ色
2. ■濃い緑色
3. ■濃いオリーブ色
4. ■黒に近い緑色
5. ■黒
0. *わからない

範囲
1. (ほとんど確認できない)

登録日時: 2013/08/26 11:26:54 観測した日: 2013/08/26 11:00 観測した方: テスト

色
0. わからない
4. くさい

範囲
3. やや少ない

(1 - 3) 1



アオサ報告フォーム

谷津干潟のアオサ発生状況の観測にご協力をお願いします。近隣住民の皆様からの貴重なご報告をお待ちしております。

色	<p>水の色はどうか？ 天気や時刻により異なりますがおよその色を教えてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <input type="radio"/> ■海水と同じ色 2. <input type="radio"/> ■濃い緑色 3. <input type="radio"/> ■濃いオリーブ色 4. <input type="radio"/> ■黒に近い緑色 5. <input type="radio"/> ■黒 0. <input type="radio"/> *わからない
におい	<p>においはどうか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <input type="radio"/> におわない 2. <input type="radio"/> 少しにおう 3. <input type="radio"/> 少しくさい 4. <input type="radio"/> くさい 5. <input type="radio"/> かなりくさい 0. <input type="radio"/> *わからない
範囲	<p>アオサが広がっている範囲はどうか？ 数日前に見た時と比べて、先月見た時と比べて、など大体的感覚で結構です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <input type="radio"/> ほとんど確認できない 2. <input type="radio"/> 少ない 3. <input type="radio"/> やや少ない 4. <input type="radio"/> やや広がっている 5. <input type="radio"/> かなり広がっている 0. <input type="radio"/> *わからない
写真	<p>観測した時の写真があったらぜひお送り下さい。 ファイルサイズは5MB以内でお願い致します。</p> <p><input type="button" value="選択"/> ファイルが選択されていません。</p>
観測した日時	<p>観測した日時はいつ頃でしたか？</p> <p>2013 年 08 月 27 日 12 時頃</p>
観測した方	<p>お名前またはニックネームをご記入下さい。 ※ウェブサイトに掲載されます。</p> <p><input type="text"/></p>

→ 送信する

試行を計画中

住民参加イベントの開催

平成24年度(1/26:谷津干潟保全事業現地見学会、146名)



平成25年度(8/24:谷津干潟保全事業現地見学会、105名)

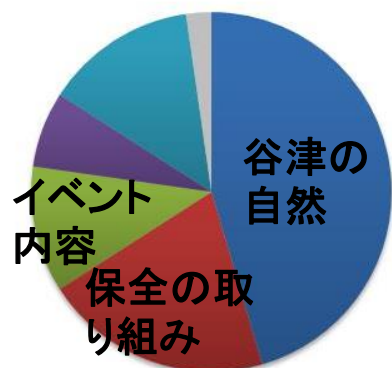
※今年度中にあと2回開催を予定



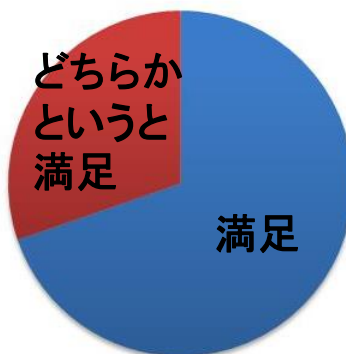
習志野市イベント「愛で包もう谷津干潟」と同時開催



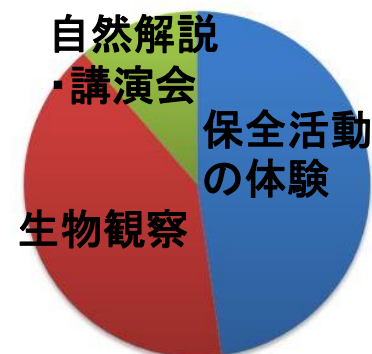
参加動機



イベントの満足度



今後取り上げてほしい内容



- 「アオサの回収や臭いの対策についての話が参考になった(60代男性)」
- 「実際に試験地を見ることでアオサの問題を考えることができ、良い機会であった(20代女性)・大学生」

第2回イベント(10/27)
習志野市イベント「アオサについて考える集い」
との同時開催を予定

3.事業の計画づくり

事業計画書(平成23年度)

1.谷津干潟の概要

- (1)谷津干潟の特徴 (2)指定・登録状況
- (3)調査・検討の経緯

2. 保全事業

- (1)国指定谷津鳥獣保護区の重要性
- (2)環境変化と今後想定される変化 (3)保全事業の必要性)

3.保全方針

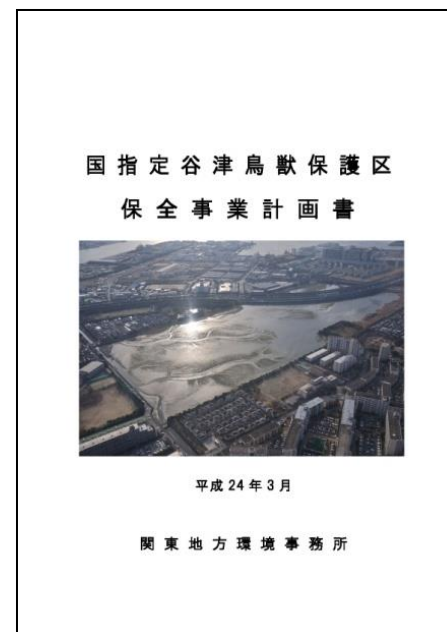
- (1)望ましい姿と保全対象 (2)保全目標 (3)保全の考え方

4.保全対策

- (1)保全上の課題 (2)課題の優先度 (3)対策メニューの抽出
- (4)対策案の比較・検討 (5)保全対策の具体化

5.保全事業の進め方

- (1)保全事業の流れ (2)保全に向けた取り組み
- (3)スケジュール (4)実施体制



⇒内容を具体
化した事業実
施計画を検討

事業実施計画書(骨子:平成25年度)

1.事業目的と基本的な考え方

2.事業内容

- (1)有効な対策メニュー (2)効果的な事業内容
- (3)事業の実施方法

3.モニタリング計画

- (1)モニタリング方法 (2)結果整理

4.事業の評価方法

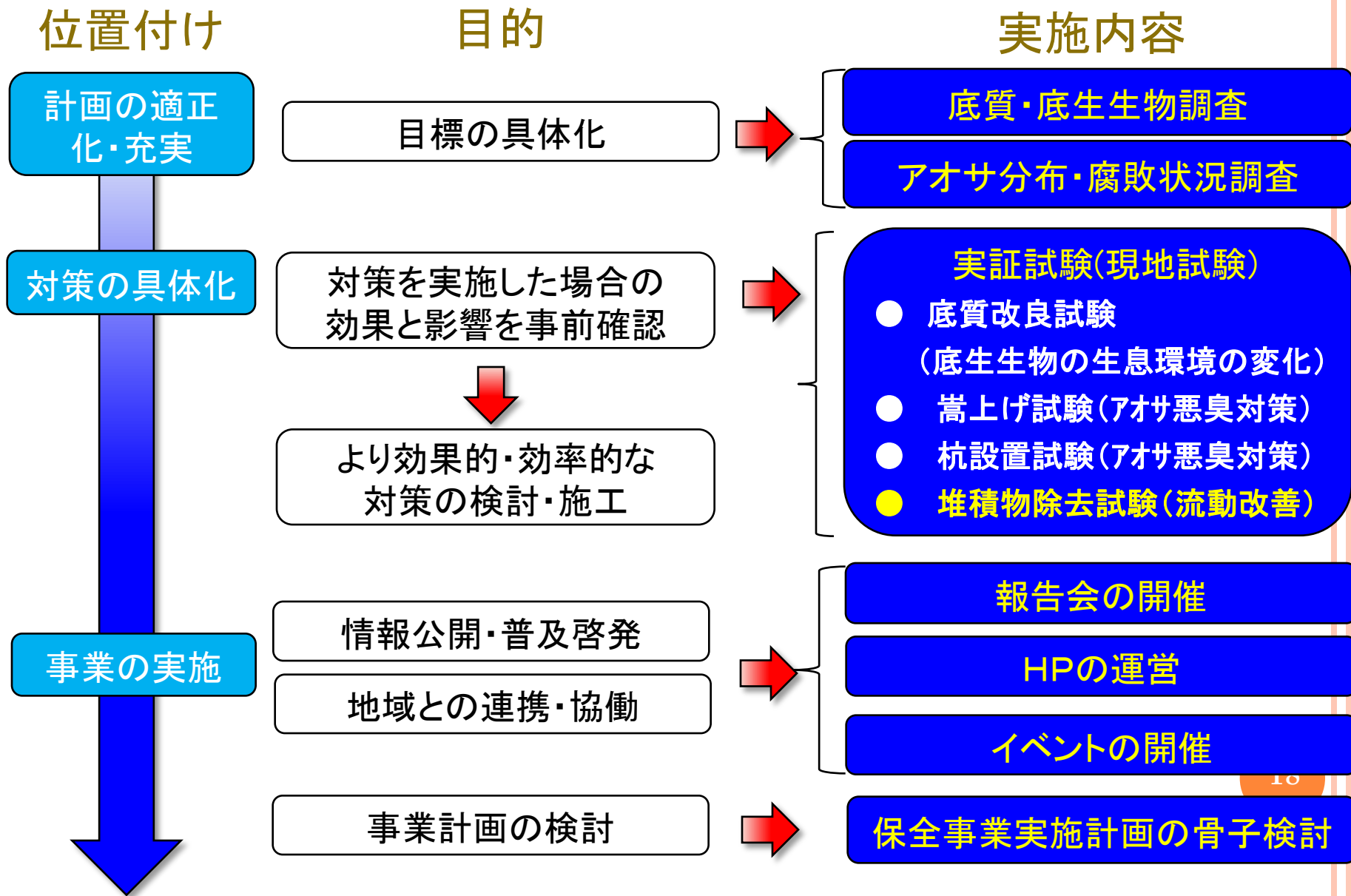
- (1)事業の目標 (2)事業の評価方法

5.スケジュール

- (1)概略スケジュール・詳細スケジュール
- (2)進捗確認・事業評価

6.実施体制・役割分担

4.平成25年度の業務項目



スケジュール(案)

	夏	秋	冬
現地調査	目標の具体化に向けた現地調査 (底質・底生生物調査／アオサ分布・腐敗状況調査)		
実証試験	底質改良試験の改良⇒モニタリング・評価		
	嵩上げ試験のモニタリング・評価		
	杭設置試験のモニタリング・評価		
	流路の堆積物除去試験の検討		
地域住民との連携	HPの運営		
	報告会		報告会
	イベント	※習志野市イベントとの同時開催	イベント
事業計画	保全事業実施計画の骨子検討		

平成 25 年度第 1 回国指定谷津鳥獣保護区保全事業報告会
(平成 25 年 9 月 11 日(水)19:00～20:00 谷津公民館 講義室)

議 事 概 要

- 参加者 ・ 嵩上げ区周辺において、杭で止められていたアオサが 9 月 7 日朝になくなって、内側に吹き寄せられていた。ちょうど大潮と重なる時期であるが、その影響ではないか。写真を撮影したので、今後のために提供したい。
- 事務局 ・ ご指摘の通り、その時期にアオサは杭の内側に広がっていた。杭の近くに設置してある定点カメラの画像を確認したところ、杭の間を抜けて内側に広がったのではなく、杭を設置していない箇所から侵入したアオサが 9 月 6 日の朝に杭の内側に徐々に広がったことが分かった。今後この部分にも杭を設置するなどして対応していきたい。
- 参加者 ・ 杭の内側のアオサは、潮が高い時に杭を設置していない場所から入ったものである。設置された杭は非常に役立っている。また、嵩上げも効果が見られているうえ、アオサ回収の際に、回収したアオサを一時的に嵩上げ区に置いておくことができるなど、アオサ回収作業にも役立っている。
- 参加者 ・ 大潮時にアオサが杭の脇から入ってくることは止むを得ないと考えられる。また、嵩上げ区周辺で鳥が餌をついばんでいる様子がよく見られるが、底生動物は増加したのか。
- 事務局 ・ 底生動物調査については先週実施し、現在結果をまとめているところであり結果が出ていない。次回の報告会で報告する。
- 参加者 ・ 谷津干潟は習志野市の財産である。水鳥だけでなくツバメやカワセミもみられる。鳥だけではなく、スズキ、大きなボラ等が多く観察可能であるなど、住宅地に近接した場所での大変貴重な環境と考えられる。習志野市には、市の町づくり会議、町会、管理組合、自治会等の団体へもっとアピールし、多くの人に関心を持ってもらえるように働きかけることを要望する。
- 習志野市 ・ 今回の報告会を谷津公民館で実施したのも、住民の方々に参加しやすい様にとという事務局の考えからであったが、参加人数が少なくなってしまった。町会へお知らせはしていたが、今後は地元のまちづくり会議へ話をするなど、もっと積極的に PR していきたい。
- 参加者 ・ 本年度は気温が高かったがアオサの吹き寄せやにおいが少なかったように感じた。気温とアオサの関係はあるのか。
- 事務局 ・ 吹き寄せ対策によりアオサを遊歩道より少しでも遠くへ離すことはできてきているが、悪臭が軽減できているかどうかは確かめられていない。臭いの測定を試みているが、人間の鼻のほうが敏感のようで、効果を定量的に評価するまでには至っていない。気温とアオサの悪臭との関係は説明しきれていない。
- 参加者 ・ 北西部のヨシが増えているような感じがするが、実際はどのようなようになっている

- か。また、予算はどのくらいで、国、県、市の負担割合はどうなっているのか。
- 事務局** ・ ヨシの面積の変化は把握できていない。事業費は 23 年、24 年共に 3000 万円程度である。保全事業として実施している部分の費用は全て環境省が負担している。
- 参加者** ・ 観察センターでの活動に参加しているが、ラムサール 20 周年ということもあり、とても盛り上がっている。これに対して環境省は援助ができないか。
- 事務局** ・ 検討会委員からも観察センターや地域住民との連携の重要性を指摘されている。多様な主体と連携をとれるように留意してやっていきたい。
- 参加者** ・ 嵩上げはとても効果があるが、嵩上げの端（東側）にアオサがたまっている。東端の橋梁部分まで延長することはできないか。センター横のくぼ地にアオサがたまり、常に悪臭が漂う状況となっている。応急処置でもよいので、何か対策はできないか。臭いは風向きと水位によって全然違う。干潟の周りを歩いている人は決まった時間に歩いている人が多いので、住民参加モニタリングは何か工夫が必要だと思う。
- 事務局** ・ 本年度は、干潟と東京湾を結ぶ流路内の堆積物除去も実施予定となっている。今後は決められた予算の範囲で嵩上げや堆積物除去等の対策の中から、効果と費用のバランスを考えて最良な方法を選択していく予定である。
- 参加者** ・ 過去に三角干潟へ通じる水路の貝殻除去を行ったら西側の干潟が現れるなどかなりの効果があった。三角干潟と高瀬川に入るところに力を入れて考えないといけない。
- 参加者** ・ 歩道橋が出来たことにより三角干潟へのアクセスが良くなったことから、今後三角干潟を整備すれば鳥類も増え、人にも生物にも良い環境になるのではないかな。

以上